



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和6年1月19日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ ムサチヨウナイカイ
団体名 牟佐町内会
所在地
連絡先
フリガナ
代表者

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	「産地牟佐」にこだわった地域活性化
事業実施小学校区・地区	牧石学区・牟佐町内会
事業実施回数	新規 ・ <u>継続</u> 8回目 / 【平成29年度から】
課題	※地域の実情と解決をはかりたい課題、事業実施の必要性について記載してください。 近年、我が地域は、農家が積極的に黄ニラやパクチーを全国的に売り出し、大きな注目を浴びている。一方では、山と川に囲まれた豊かな自然があり、種々の自然資源が存在するが、今日では、ごく一部の人がそれらに関わるばかりで、一般の住民や子供達がそれらに直接触れる機会ほとんどない。その存在も、ましてやそれらが活用できる資源であることも知られていないのではないかと。日常にある、あるいは身近にあることは知っていても、触れることがないために、その価値を知らない、わからない。これは地域にとっては大変に残念なことと言わざるを得ない。 また、古くから地域に伝わってきたみそづくりの文化の灯が消えかかっており、併せてそれらを次世代へつなぐ世代交代も待ったなしの課題となっている。
事業の目的	※事業を実施する「目的」を記載してください。 大切な自然の恵みが身近に存在するということを知り、その一部はワークショップ的に活用するなど、より地域に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成などにつないでいく。さらに、それらの資源を加工・販売し、町内に収益として還元できる取組みを継続する。併せて、地域に受け継がれてきた「産地牟佐」手づくりみそ文化の灯を消すことなく、その伝承と住民への啓もうを事業の目的に位置付けたい。

事業の内容	※具体的に実施する活動内容を箇条書きで記載してください。 ・町内での農産物被害対策として、猟友会の有害獣の駆除活動の紹介・学習 ・町内で駆除されたイノシシ等のジビエ利用や皮革活用（ワークショップ）等を通して自然資源の大切を学ぶ。 ・町内で駆除された獣皮を活用した革製品づくりを継続する中で技術向上に取り組み、引き続き販売を通して「産地牟佐」のブランドづくりに挑戦 ・里山に多種存在する「産地牟佐」の樹木やどんぐりを資源としての活用の調査検討 ・町内での蜂蜜づくりの紹介・学習 ・地元の旭川で獲れた鮎、川ガ二等の紹介・学習・試食 ・町内にある自然資源である「太戸の滝」の紹介 ・町内の自然や暮らしなど地域をテーマにした写真展の開催 ・世代をつなぐ「みそづくり文化」の伝承
期待される成果・目標	※事業実施することで、変化すること、期待している成果、事業実施後にどこまで到達しておきたいか「目標」を記入してください。 ・地元町内会で獲れた獣皮の活用が身近で行われていること、さらには自分たちもそれに気軽に参画できることを知ることで、すべての世代にとって地域愛の醸成につながる。 ・害獣皮革製品の販売収益の拡大は、スタッフの励みになり、すべての関係者にやりがい、達成感をもたらす。 ・参加者にはアンケートに協力いただき、意識の変化や事業への期待を読み取り、事業の目的がどの程度達成できているかを調査したい。 ・みそづくりの技術継承のために残された時間は限られたもので、若い世代のみそづくり参加者が少しでも出てくれば、大きな成果と言える。 ・里山のどんぐり、樹木などが大切な資源でもあることが体感できるようになれば、まさにSDGs そのものを実現することにつながる。
企画などの工夫	※通常、日常的に実施している事業をそのまま提案された場合は、対象とならない可能性があります。区づくり推進事業の申請にあたって、何をどう変えたのか、どこに活動の目的や対象をしばったのかなど、企画にあたっての工夫をお書きください。 ・有害とされ駆除されるイノシシ等の皮が活用されることはなかった。町内で捕獲されたイノシシの皮を東京の業者になめしてもらい、町内会が革製品に加工。そして、イベント等で参加者がそれを活用し、獣皮に親しむ。 ・「産地牟佐塾」が取り組んでいる店頭での獣皮加工ワークショップは、市民の関心が非常に高く特長の一つとして継続する。 ・町内で蜂蜜づくりに挑戦することで自然資源がいかに身近に存在するかを知ることができる。これらは「産地牟佐」として、地域に対する認識を深めることができる。 ・みそづくりに提供いただく機器類の老朽化対策は避けて通れないため、リース方式など事業継続可能な手法を実現したい。

	・里山のどんぐり、樹木を活用した炭、木材として活用した木箱等々、まったく手探りだが調査研究したい。 ・写真はもちろん、取り組みを動画で記録。インタビュー等により、住民が主役の内容とする。
協働する団体等	※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。 ※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。 ・町内の猟友会：有害獣駆除およびなめし前までの処理 ・MATAGI プロジェクトプロジェクト（東京都墨田区 山口産業）：皮のなめし、染作業 ・岡山県セルプセンター顧問：皮革製品製作指導、加工器具提供 ・牟佐町内会：関係団体調整、本事業企画・実施、経費負担 ・牟佐区（農家組織）：被害状況報告、有害獣駆除作業の補助 ・牟佐町内会子ども会：小学生の参画について企画提案 ・牟佐まちづくり協議会構成団体（シニアクラブ、婦人部ほか）：ジビエ料理ほか調理、ワークショップ開催 ・牟佐町内ボランティア：有害獣駆除作業補助、「産地牟佐塾」へ参画 ・町内の川漁師：川ガニ等川資源の提供 ・町内の養蜂家：「産地牟佐」はちみつを提供 ・JA 女性部有志：みそづくり技術の伝授 ・里山の自然や炭焼きに精通する専門家：どんぐり等の解説や炭焼き復元アドバイス ・木箱づくりの専門家：「産地牟佐」の木材を活用した木箱づくり
事業の情報公開	※区づくり推進事業は、広く区民へ情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。 ・町内住民へ町内会新聞やチラシ配布 ・電子町内会（町内会ホームページ）や Facebook グループ、LINE グループにて情報発信 ・ユーチューブ等への動画による情報発信 ・報道機関への情報提供 ・関係機関のホームページ：岡山市、県民局、中四国農政局、日本ジビエ振興協会ほかネットを通して、市内外に取り組み紹介が広がっているようだ。
学区地区への広がり	※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。 ・学区連合町内会へは、コロナ禍を乗り越えて新年度に再開予定の「牧石学区ふれあいまつり」への産地牟佐イノシシ革製品販売などを通じて PR したい。 ・牧山クラインガルテンの収穫祭での獣皮製品販売は既に3回目を実施。一様に驚かれるが、徐々に認知されている様子。引き続きチャレンジしたい。 ・北公民館職員は、既にイノシシ革製品を利用いただいているが、チラシや町内会新聞等を配布。 ・町内へは、町内会新聞（全戸配布）電子町内会や町内会コミュニティの Facebook により一般に情報提供。

	・積極的に参画する子ども会との協働の現場を、小学校の校長先生にも参観いただくことにより、市教育委員会取り組みの柱の一つである市民協働学校への発展の可能性は十分にあると考えている。R5 年度開催時には、初めて、校長先生をお呼びした次第だ。 ・学区のまつり、クラインガルテン収穫祭等での獣皮製品販売を考えているが、既に3回目を実施。初めて知った学区の方も様に驚かれるが、徐々に認知されている様子。引き続きチャレンジしたい。 ・5年ほど前、学区で映画「いただきます。みそをつくる子ども達」の映画上映を行い好評であった。みそづくりは、他地域でも関心は高いと思われる。昨年も、一部他町内からも受け入れをしており、このような取り組みができる場所は多くないため、とても喜んでいただいている。
前年度からの見直し拡充点	※継続事業で申請される場合は、<u>前年度の事業の成果を踏まえ、今年度の事業の改善・拡充点を記載してください。また審査会での助言・コメント等について改善・拡充したこと、改善・拡充ができなかった場合は、改善・拡充ができなかった理由を記載してください。</u> ・1月現在で町内会員世帯数が1,012世帯となったが、アパートを含めて周知・案内には努めてきた。町内会新聞等はもちろん全戸配布となるが、多くの情報は回覧となる。残念ながらアパートは回覧が回らない。したがって、許された掲示板への掲示までとなってしまうのが常である。何処も同じ悩みを抱えていると思われる。ショックだったのは、大手グループ企業として積極的にSDGsをアピールしているが、その住宅管理会社D社が、「アパート住人に対して、町内会費を入居者から取ることで経営に影響が出かねない」ことを理由の一つに挙げて、町内会加入に積極的な協力はしない方針を本社が決定したということ。信じがたいことだが、こういうレベルと地域の最前線は日々戦っている。 ・ただ、ありがたいことに、子ども会へは全員（約90名）が加入しており、全員がグループLINEでつながっている。夏休みに4年ぶりに開催できた「牟佐っ子子ども教室」（小学生が革製品づくりに挑戦）の準備のために、たび重ねての連絡や案内には、ペーパーの回覧は一切必要なかった。これには驚くばかりであった。これから考えると、子ども達については、アパートに住もうが、どこに住もうが、瞬時に全員に間違いなく連絡が届くという秀逸さであり、昨年コメントをいただいた懸念はなくなったと言える。 ・前年度から続く新型コロナウイルスの感染対策による、開催中止を覚悟していたが、フルバージョンではないにしても、7月の「牟佐っ子子ども教室」を4年ぶりに再開してからは、年末にかけて計画していた行事を次々と実施できたことは誠に喜ばしいことであった。 ・「産地牟佐塾」の取り組みだけは変わらずコツコツと1年間継続し、商品のクオリティもアップし、積極的に販売に力を入れたことで一定の収益を得ることができた。 ・イノシシや鹿の皮革に対する関心の高さをふまえ、さらにレザークラフト教室のターゲットとして徐々にエリアを拡大することに挑戦してみたい。新年度も岡山刑務所での矯正展や市役所ロビーでの販売等を通じて収益づくりに挑戦したい。ネット販売については、将来の課題としたい。 ・これまでの取り組みからはっきりしたことは、店頭での獣皮革加工のワークショップは、大人から子どもまでとても関心が高いこと。もちろん無料で気軽にできることもあり、一人でも多くの方に体験していただけるが、獣皮活用や地域コミュニティの取り組みのPRができることは間違いなしと手ごたえを感じている。引き続き、これを一つの売りとして取り組みたい。 ・コロナ禍で見送りが続いてきたジビエ料理（シシ肉入りカレー等）だが、過去

	の評価は、シシ肉がとてもおいしいという感想が多く聞こえていることから、再開を検討したい。 ・平成30年、町内にある「牟佐大塚古墳」が日本遺産の構成文化財となり、体験型プログラムを開催してきたが、古墳をモチーフとしたイノシシ革のタグを参加記念品としてお配りした。さらに、古墳巡りのツアー客が全国から来るようになっており、この企画をさらに拡充させ、産地牟佐のブランドづくりに生かしたい。 ・「産地牟佐」みそづくりは、ありがたいことに、JA女性部の先輩方が、みそづくり支援チームを立ち上げてくださり、無償でみそづくりを伝授いただける取り組みで、世代を超えて実施できている。願わくば、大豆を栽培するところから取り組みたいところであり、さらには、衛生基準もクリアして、流通に乗せることを引き続き検討したい。 ・里山の資源を活用 里山に多種存在する「産地牟佐」の樹木やどんぐりを資源として活用できないか。あるいは、戦後も続いていたと聞く山中のあちこちで普通に行われていた炭焼きの復元ができないものか。人々が山から遠ざかり、荒廃が進む里山を資源として見つめなおすことを、さらに検討を続けてまいりたい。
次年度以降の予定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ①次年度以後の活動計画 ・引き続き皮革が確保できるようであれば、同様のワークショップを開催。 ・引き続きアドバイスもいただき、ブランド化や安定した販売に取り組みたい。 ・相手が自然であるが、ジビエ、川ガニ、ニホンミツバチのはちみつ（百花蜜）なども、その味覚を地域に伝えたい。 ・みそづくりの伝承も定着させたい。 ・みそづくりや子ども食堂などの拠点となり得る新たな場所の確保について調査を続けたい。 ・里山の自然（樹木、どんぐりなど）を資源として活用したい。 ②資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☒ (5) 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策：革製品販売（ネット販売も研究）、手づくりみそ販売（衛生基準を満たさない限り、外への販売は不可）
その他PRしたい点	農水省が実施した「平成29年度鳥獣被害対策優良活動表彰」の「捕獲鳥獣利活用部門」で、中四国農政局長賞をいただいた情報は、当局から情報発信され、他地区公民館からの視察受け入れや、大学生の卒業論文の取材受け入れるまでになった。平成30年度には「マニフェスト大賞優秀成果賞」、令和2年度には「岡山市協働のまちづくり賞」にて大賞を受賞、令和3年度には備前県民局より「地域づくり推進賞」を受賞させていただいた。さらに令和4年1月、第7回日本ジビエサミットにおいて、岡山市の「区づくり推進事業」の紹介（タイトルは「町内会が起点となった取組みの視点から」）のため登壇を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスのオミクロン株拡大に伴い中止となってしまったが、資料だけは全国の参加申込者に対して配布いただいた。 令和3年度の備前県民局からの地域づくり推進賞受賞団体として、令和4年11月に、伊原岡山市知事との「生き活きトーク」への参加依頼があり、県知事に前に岡山市の「区づくり推進事業」をPRすることができた。

事業スケジュール（企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容
4月	・牟佐の自然をテーマにした写真展準備作業 ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業準備 ・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・年間を通して、フリーマーケット等で「産地牟佐」イノシシ革製品販売
5月	・町内会文化祭を活用し、牟佐の自然をテーマにした写真展の開催 ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ（「牟佐っ子」子ども教室）準備会議立ち上げ ・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後）
6月	・町内会新聞6月1日号にて、「産地牟佐」区づくり推進事業を紹介 ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ（「牟佐っ子」子ども教室）準備会議および作業 ・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後）
7月	・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ（「牟佐っ子」子ども教室）の準備および開催（夏休み最初の日曜日） ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業紹介 ・「産地牟佐塾」（毎週木曜日午後）
8月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ準備
9月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ準備
10月	・町内会運動会を活用し、「産地牟佐」事業の紹介 ・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・岡山刑務所矯正展を活用し、「産地牟佐塾」イノシシ革製品販売 ・「産地牟佐」の革製品作成ワークショップ準備 ・野生鳥獣・林業振興パネル展（市役所1階ロビー）にて「産地牟佐」のイノシシ革製品販売および資源としての利活用を紹介。 ・「産地牟佐」みそづくり参加者募集
11月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・「産地牟佐」のイノシシ革製品作成ワークショップ開催（大人のレザークラフト教室） ・牧山クラインガルテン収穫祭参画（「産地牟佐」イノシシ革製品販売） ・「産地牟佐」みそづくり説明会開催 ・里山資源調査計画
12月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・もちつき大会を活用し、ジビエ料理ほか（しし汁、カニ汁、はちみつetc.）提供 ・「産地牟佐」の蜂蜜づくり事業紹介
1月	・町内会新聞新年号にて、「産地牟佐」の区づくり推進事業の取組み紹介 ・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・「産地牟佐」みそづくりAチームから順番にスタート ・里山の資源調査
2月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・「産地牟佐」みそづくり最終チーム終了 ・里山資源調査
3月	・「産地牟佐塾」開催（毎週木曜日午後） ・町内会総会にて、記録の発表・報告 ・反省会開催

収支予算書

収 入

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	388,560	373,000	
実施団体負担金	141,060	223,000	町内会負担金
参加者負担金	37,500	50,000	ワークショップ参加者 みそづくり参加者
協賛金			
寄附金、他収入	160,000	100,000	「産地牟佐」革製品販売
収入合計	727,120	746,000	

支 出

単位:円

項 目	前年度決算又は 決算見込額	予 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	60,000	60,000	会議資料用紙、プリンターインク、 文具、記録媒体、皮革加工用道具類
②食糧費	0	0	
③印刷製本費	0	40,000	記録資料(紙)@50×100=5,000 記録資料(DVD)@50×100=5,000 カタログ作成1000部 30,000
④燃料費	20,000	20,000	「産地牟佐」もちつき大会等ガス代
⑤光熱水費	0	0	
⑥通信運搬費	22,500	23,000	獣皮送料@1500×15回=22,500
⑦広告料	0	0	
⑧手数料	1,000	1,000	振込手数料
⑨使用料・賃借料	113,620	114,000	川カニかご使用料5,000、ニホンミツバチ巣箱使 用料5,000、レザークラフト道具使用料5,000 みそ加工自動発酵機リース料90,420、産地牟佐 塾ハンドプレス機リース料13,200 収穫祭出店料3,000
⑩原材料費	100,000	100,000	レザークラフト材料70,000 ジビエ料理「産地牟佐」材料30,000
⑪委託料	300,000	333,000	なめし加工代@8,000×35頭=280,000 皮はぎ加工代@1,500×35頭=52,500
⑫工事請負費	0	0	
⑬報償費	30,000	30,000	「産地牟佐塾」講師料@3000×10回=30,000
⑭保険料	30,000	25,000	@5,000×ワークショップ2回 「産地牟佐」もちつき大会@5,000 みそづくり17班延べ約280人@10,000
⑮旅費	0	0	
小計(①)	677,120	746,000	
⑯新型コロナウイルス 感染症防止対策経費	50,000		アルコール消毒液、非接触型体温計、 飛沫感染防止用アクリル板、マスク
小計(②)	50,000	0	
支出合計(①+②)	727,120	746,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください。)

補助金(3/4)の概算払いを	希望する ・ <u>希望しない</u>
----------------	---------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

--

○ 内容欄へは使用用途等を記入してください。